

報道機関各位

令和6年5月8日  
農林水産部農村整備課

## 山形県農業農村整備ICT施工技術研究会の設置

人口減少や高齢化に伴い、農業や建設現場では後継者や就業者の人手不足が深刻化している状況を踏まえ、本県では農業基盤整備の建設工事におけるICT施工の県内普及や農業のスマート化に向けたDXの推進に取り組む方針としています。

この度、農業農村整備事業における建設工事のICT施工や整備完了後の農地におけるスマート農業の導入を目指すとともに、それらの技術の普及、定着を図り、現場の実証から効果算定までの研究・検証を行うため、関係機関で構成する「山形県農業農村整備ICT施工技術研究会」を設置することとしました。

下記のとおり研究会を開催しますので、ぜひ、取材くださるようお願いいたします。

### 記

- 日時 令和6年5月15日（水） 13時30分～15時
- 会場 山形県庁15階1502会議室  
(山形市松波二丁目8番1号 電話023-630-2502)
- 内容  
(1) 研究会の設置について  
(2) 事業内容と今後の年間スケジュールについて  
(3) 意見交換
- 参集者  
山形大学農学部、東北農政局、山形県、山形県土地改良事業団体連合会、  
山形県土地改良建設協会、山形県測量設計業協会  
アドバイザー：農研機構、株式会社砂子組
- その他  
会場内に記者席を用意しますので御利用ください。

(DXとは)

スマートフォンやIoT (Internet of Things) デバイス等の機器の普及や、それらの機器を通じた大量のデータ (ビッグデータ) の集積が進むなか、近年、これまでの現実空間を前提とした業務そのものを効率化し、さらに抜本的に変革すること「デジタル・トランスフォーメーション (DX : DigitalTransformation)」。



【問合せ先】  
農村整備課  
課長補佐 (農業基盤DX担当) 沓澤宗一  
電話 023-630-2510  
報道監 農林水産部次長 高橋和博

# 【新規】農業農村整備 ICT 施工推進事業費

## 概要

○農業基盤整備の建設工事における ICT 施工の県内普及や農業のスマート化に向けた DX の推進

予算額（当初）：5,236千円

事業期間：令和6～8年度

## 背景／課題

### 【背景】

- 農業者の減少や高齢化から後継者不足が進行、担い手の経営面積拡大により農作業の負担が増加
- 建設現場の就業者数の減少や高齢化等から人手不足が深刻化

### 【課題】

- 農作業の効率化を図る必要があるが、農業機械の自動走行に必要な3Dデータや農地の切盛土ヒートマップなどスマート農業に必要な情報の提供や効果検証が行われていない
- ほ場整備では、面的に多くの土を移動させるため、施工の進捗にあわせて設計値を変えるなど、特殊性があり ICT 活用工事の実施件数が少ない

## 事業内容

### 1 農業農村整備 ICT 施工推進事業

- ICT モデル工事の実施
  - ・各総合支庁でモデル工事を実施
  - ・課題の収集と解決方法の検討・取りまとめ
- 先進地視察と研修会の開催
  - ・農業基盤整備の ICT 施工を多く実施している先進地へ視察
  - ・最先端技術や課題検討・効果検証の結果を関係機関で学ぶ研修会を実施
- 農業への展開実証
  - ・工事の成果をトラクターの自動走行やドローン防除等に展開する実証試験
- 事業効果の検証
  - ・農業のスマート化に係る経費節減効果の検証

◇3次元設計データを ICT 建機に使用  
ブルドーザー整地 畦畔造成 バックホウ掘削



◇施工段階で得られた3次元位置情報を農業機械の自動走行等に使用



### 2 推進体制

- ICT 施工技術研究会を設立  
県内の関係機関や大学と連携し、モデル工事の実施や検証を行う

## 事業スキーム

ICT 施工技術研究会の設立

ICT モデル工事の実施

- ・3次元起工測量
- ・3次元設計データ作成
- ・ICT 建設機械施工
- ・3次元出来形管理
- ・3次元データ納品

課題の収集と解決方法の検討

ICT 施工データの農業への展開実証

- ・農業機械の自動走行等検証

事業効果の検証

- ・モデルほ場における実証データの取得
- ・経費節減効果の算出

○農業基盤整備の ICT 施工の県内普及

○スマート農業技術に対応した基盤整備の促進

## 事業目標

・ ICT を活用した工事件数 R5 (現状) 5件 ⇒ R8 (目標) 20件

## 問い合わせ先

- 担当課：農村整備課  
設計・システム管理担当
- 電話：023-630-2502